

1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
賢治の学校 「滝沢物語」～賢治の歩いた道を辿る～

2 趣 旨 岩手の偉人である宮沢賢治の青年時代の足跡を辿り、賢治の創作の基になった歴史的史跡や景勝地を見聞する活動や体験活動を通して、豊かな心情や自然への畏敬の念を育む機会とする。

3 期 日 令和2年10月17日（土）～10月18日（日）

4 参加者 岩手県内の4家族11名

5 後 援 岩手県教育委員会、滝沢市教育委員会

6 協 力 イーハトーブ団栗団、特定非営利活動法人馬と曲り家のおおさわ村

7 内 容

(1) 日 程

10月17日(土)	晴天		受付	開会行事	～石コ賢さんの歩いた道～ 温泉(バス停) 影添坂(石英採取)・人面岩 鬼越坂(瑪瑙採取)	天 ふ ら そ ぼ と サイ	屋 倉 (薬 倉 部)	馬 コ	チ ヤ グ チ ヤ グ	～石コ賢さんの歩いた道～ 大沢坂峠 新鬼越池	テ ン バ ー ク に	ベ ッ ド メ イ ク	夕 食	鉱物薄片観察 石英選別	入 浴	就 寝
	荒天	小雨決行 * 荒天時は当日判断でプログラムの変更があります														
18日(日)	晴天	起 床	洗 面 ・ 身 支 度	清 掃	荷 物 整 理	朝 食	退 所 点 検	出 発	賢治ゆかりの地と詩碑巡り 岩手山神社 岩手山馬返し登山口 春子谷地温泉 小岩井駅・栗谷川宅 柳沢小学校	テ ン バ ー ク へ	閉 会 行 事	解 散				
	荒天	小雨決行														

(2) 指導者

- ・ 照井一明 氏 (理学博士)・・・岩石資料提供
- ・ 栗谷川寛衛 氏 (イーハトーブ団栗団)

(3) 企画のポイント

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉が岩手県民計画の冒頭県知事の言葉のタイトルとして挙げられている。賢治のその言葉に代表される「他人との関わり」や「繋がり」を大切にする県民性は風土の中で培われ養われた強みである。岩手県にあるナショナルセンターとして、地域や全国に発信できる教育テーマとして、「関わりや繋がりを大切にした学び」、つまり「過去（歴史）との繋がり、現在（いま）との関わり、（持続可能な）未来へ繋がる学び」を念頭に置き ESD を通して郷土や地域について学ぶこの事業を計画した。また、本施設の特色化として位置づける予定の「イーハトーヴ銀河プログラム」開発の試行的事業である。

○ESDの観点

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・ 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。

また、「イーハトーヴ銀河プログラム」は、岩手山周辺でその人生の3分の1を過ごした「宮沢賢治」をプログラムの視点に据える。賢治は、世界平和の希求、教育、音楽、鉱物（岩石）、土壌、植物、天体、フィールドワーク（体験活動）、文学、外国への造詣、信仰などに精通しており、小学校6年生の国語の教材「やまなし」の作者でもある。賢治を視点とし、感性（五感）にみる心象風景を感じることができるプログラムは、多様なジャンルで拡充・開発することができる。

この秋の事業では、岩石集めが好きで「石コ賢さん」と呼ばれた賢治の鉱物（岩石採取と観察）と文学に特化した体験プログラムにした。「宮沢賢治」という過去（歴史的偉人）に触れることで現在（今）の自分を見つめ、未来の自分の物語（ストーリー）に繋がっていくように、本物に触れる体験の提供にこだわり講師と共に企画した。このような事業を提供していくことで、施設の特色化を図り地域に必要とされる施設になっていくとともに、ナショナルセンターとして、代替の利かない唯一無二の存在へとなり得ると考える。

（４）広報のポイント

昨年度から事業実施に向けて、近隣の駅や公共施設にポスター掲示依頼をした。また、春に岩手山青少年交流の家の年間行事を掲載したイベントカレンダーを岩手県内の全小学生児童に配付した。このイベントカレンダーに事業情報も盛り込んだ。さらに、夏期に施設を利用している団体や個人に事業があることを広報した。

（５）運営のポイント

本事業は春・夏・秋と３つの特色をもった事業を実施予定であったが、コロナウィルス蔓延の影響もあり、事業の中止や日程変更を余儀なくされた。しかし、今回の秋の事業は岩手県内の親子に限定し、参加者も少数で実施することができた。講師には、賢治が歩いて採取した岩石の研究に精通している照井氏（事業当日は体調不良のため欠席）と本施設の七宝焼き講師でもあり賢治が歩いた旧道と岩石の採石地に詳しい栗谷川氏を招聘した。

初日は、賢治が歩いた旧街道沿いの「滝沢石」を採ったり、南部曲り家で手打ちそばを食べ、チャグチャグ馬コに触れたりし、大正から昭和初期の暮らしを体験した。夜のプログラムでは、採取した滝沢石の中から家族毎にダイヤモンド結晶を見つけたり、県内で採れる石の薄片を顕微鏡で観察したりした。二日目は、賢治の創作した詩碑をめぐり、創作のヒントとなった雄大な大地から賢治の創作意欲に想いを巡らせられるようにした。

８ 成果とその普及

参加者を岩手県内の親子に絞り、少数で実施したが川での岩石採取や大沢坂という山の中の旧道を歩くには丁度よい人数であった。

親子で、実際に岩石を採取したり、顕微鏡で石の薄片を観察したりと日常ではできない体験を提供したことで、先人である賢治の発想の素晴らしさや自然の雄大さをそれぞれが感じ取っていたことがアンケートからも伺えた。

宮沢賢治の生地である花巻市周辺には、足跡を掘り起こした様々なイベントが行われているが、盛岡市・滝沢市・雫石町は賢治が多感な青春時代を過ごした地であり、創作活動のヒントを得たと思われる場所がたくさん存在する。この事業で幾つかの賢治にまつわる足跡を掘り起こせたことは大きな一歩であったと考えるとともに来年度の銀河プログラムの財産にすることができた。

９ 今後の課題

今回は、晴天に恵まれ全て予定通り実施することができた。万が一、荒天だった場合は七宝焼きを予定していたが、時間が余ることも想像できる。体験を通して趣旨を達成するために荒天時プログラムを幾つか用意しておく必要がある。

また、二日目の詩碑巡りでは、石碑自体に難解な文字があったり、旧字体であったりしたため、小学校中・低学年には難しかったと思う。プログラムがどの年代を対象にすれば良いか、検討が必要になってくる。



滝沢石の採取の様子



ダイヤモンド結晶採取の様子



詩碑「くらかけ山の雪」群読の様子